

# ニューノーマルに対する新しい学びの構築

[研究開発構想]

持続可能なランドスケープの設計

～天白川水系から世界を俯瞰する～

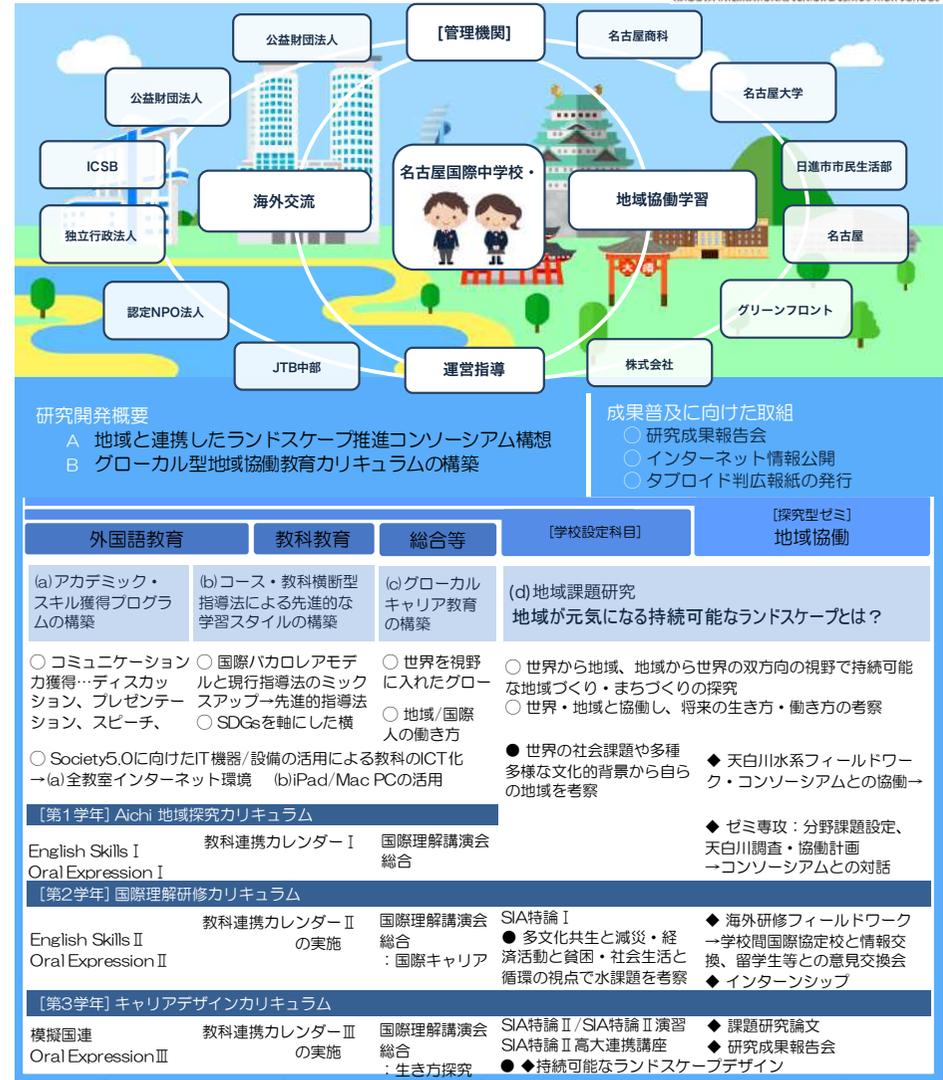
名古屋国際中学校・高等学校 (管理機関：学校法人栗本学園)

[1年目]  
2019年通常→2020年2月コロナ対策

[2年目]  
2020年4月から休校措置  
(課題1)通常授業の実施すら困難  
(課題2)オンライン授業の構築が急務  
(課題3)研修・FWができない。  
→生の情報が得られない。  
(課題4)予定←感染状況で変わる

↓  
[新しい方法]  
オンラインの活用

持続可能なランドスケープの設計



外国人と共生するこ 世界の国へ自らの考 世界から地域を客観 地域課題を具体的な コミュニティを形成

# オンライン研修

## [目的]

- ・ローカルとグローバルの比較
- ・リアルでできないことへの挑戦
- ・新しい海外研修の構築

## [スケジュール]

- ①全体研修(2日)
- ②グループ活動(4日)
- ③報告(1日)



## [現地調査]

グループごとに  
現地調査員へ指示



湖畔の村の社会課題を  
見つける。



プロジェクト作成



## [主なプロジェクト]

- ・ 日本漁法で漁をする  
(トンレサップ湖畔における  
漁業と生活の変化)
- ・ 現地の物で浄水する  
(トンレサップ湖畔における  
環境改善)
- ・ 現地の物でファストフード  
を開発してみる  
(トンレサップ湖畔における  
食文化)
- ・ 子どもに生き物を取って  
来てもらう  
(トンレサップ湖畔における  
本当に必要なものは何か)
- ・ わらしべ長者を実施する  
(“もの”の価値観の違い)
- ・ 現地のえびと米で煎餅を  
作ってみる。  
(名古屋せんべいをカンボジで)
- ・ 村長の家などを比較する  
(村内の家庭環境の比較)



## [活動報告会]

オンラインで配信

## [成果]

- 生徒主導
- 現地の方との対話に多くの時間を使用する
- 情報量は、リアルよりも多く、貴重なものが多い
- 計画変更がしやすい
- 低予算で実施できる

## [展望]

リアルとオンラインのハイブリッドが最も効果的である可能性がある。



## [生徒の変容]

・私は今回の研修で”イメージ”が誰かを傷つけるかもしれないと学んだ。イメージで解決策を作っても現地のためにはならない。私たちは、空想のイメージを捨て、リアルな様子を知ろうとする心を持たなければならない。

・ネットの情報だけでは、ずっと、カンボジア＝単なる貧しい国というイメージだけで生きていくことになっただろう。研修で人々の生活を覗くことで、環境的に足りないものとともに、他国にはない良さ、満ち足りているものが見えた。

・実際に研修に参加する前、この研修の目的は、日本が持続可能な社会、カンボジアが持続不可能な社会だから、私たち日本人がその持続不可能な面を突き止め、そこから世界全体をより持続可能なものにするためのヒントを見つけ出すことだと考えていた。しかし、研修に参加し、カンボジアには日本にはない持続可能性や豊かさがあると知った。





[交流]

他校・・・愛知県、広島県、高知県、香川県、岡山県、鹿児島県など10校以上と交流  
 企業・NPO・自治体・国際機関など20組織以上と交流



[連携・協定等]

国内・海外・・・連携協定締結、姉妹校締結

連携・・・名古屋市昭和区、NPO八事里山づくりの会

加盟・・・愛知県SDGs登録、名古屋市SDGs推進プラットフォーム登録



## [外部評価]

名古屋市感謝状、ベストアクティビティ賞(ESD大賞)、ビジネスコンテスト優秀賞  
SDGsまちづくりコンテスト優秀賞

中日新聞・朝日新聞・環境情報誌などへの掲載、地元TV局・ラジオ局からの取材